



平成 27 年 11 月

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与するべく絶えず検査領域の拡大に努めておりますが、このたび、下記項目の検査受託を開始することになりました。

取り急ぎご案内させていただきますので、ご利用のほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

## 新規受託項目

● 遊離テストステロン : 項目コード 5915

## 受託開始日

平成27年12月1日（火）受付分より新規受託開始

※ 詳細につきましては、裏面の内容をご参照願います。

※ 新試薬での受託開始に伴い、従来項目は受託中止とさせていただきます。

| 項目<br>コード | 検査項目           | 受託中止期日 |
|-----------|----------------|--------|
| 5440      | 遊離テストステロン〔RIA〕 | 即日     |

保健科学グループ



株式会社保健科学研究所

|      |                      |                  |
|------|----------------------|------------------|
| 本 社  | ／ 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106    | TEL 045-333-1661 |
| 仙台支社 | ／ 仙台市宮城野区扇町 1-1-6    | TEL 022-236-9345 |
| 中部支社 | ／ 名古屋市西区則武新町 2-20-17 | TEL 052-582-3201 |
| 大阪支社 | ／ 豊中市原田中 1-2-3       | TEL 06-6843-5622 |
| 福岡支社 | ／ 福岡市博多区山王 2-14-34   | TEL 092-452-0851 |

新潟臨床検査センター  
保健科学東日本  
日本ノーバメディカル研究所  
い かが く  
組織科学研究所  
ケーアイー細胞病理研究所  
カスタムメディカル研究所

遠州予防医学研究所  
日本厚生団衛生科学研究所  
湘南医化学検査センター  
小田原衛検  
相模医研  
東部メディカルセンター

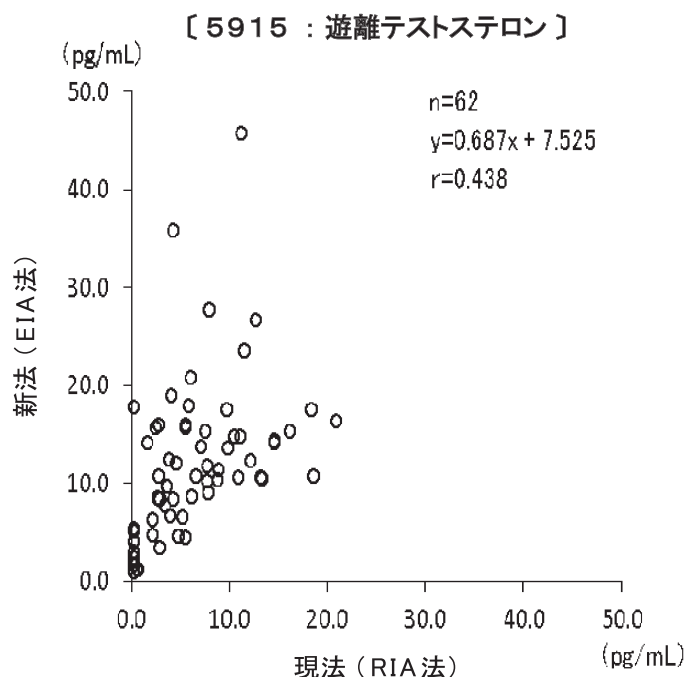
## 新規受託項目

| 項目コード | 検査項目      | 検体必要量       | 容器保存方法               | 検査方法  | 基準値             | 所要日数  | 実施料判断料     | 備考 |
|-------|-----------|-------------|----------------------|-------|-----------------|-------|------------|----|
| 5915  | 遊離テストステロン | 血清<br>0.2mL | A1<br>↓<br>G-1<br>凍結 | EIA 法 | 表 1 参照<br>pg/mL | 3～5 日 | 166<br>生化Ⅱ |    |

（表 1）遊離テストステロン基準値（単位：pg/mL）

| 年齢    | 男性       | 女性      |
|-------|----------|---------|
| 20～29 | 8.8～31.7 | 1.5～4.9 |
| 30～39 | 7.3～28.9 | 0.8～4.1 |
| 40～49 | 6.2～24.9 | 0.5～4.0 |
| 50～59 | 6.1～25.0 |         |
| 60～80 | 5.8～18.2 |         |

### ▼ 現法と新法の比較



### ▼ 臨床的意義

テストステロンはコレステロールから生合成される各種ステロイド化合物の 1 つであり、強力な男性ホルモン（アンドロゲン）作用を有します。血中のテストステロンは大部分が結合蛋白である性ホルモン結合グロブリン（SHBG）ならびにアルブミンと結合しており、ごく微量が非結合型の遊離型テストステロンとして一定の割合で存在しています。

遊離型テストステロンはホルモン活性を有するため性腺機能の判定に用いられていますが、SHBG が変動し総テストステロンの測定値が臨床症状と一致しない肝疾患や甲状腺機能異常症においては、正しい性腺機能を判定するために血中遊離テストステロンの測定が有用とされています。また、遊離テストステロンは加齢により減少し、男性の更年期障害においても減少する傾向が認められるため、特に男性更年期障害の診断においては不可欠で、汎用される項目です。

### ▼ 参考文献

近藤 文子, 他 : 医学と薬学 52 (1) : 113-117, 2004. (臨床的意義)

大塚 喜彦, 他 : 医学と薬学 72 (1) : 147-151, 2015. (検査方法、臨床的意義)